

114  
A3031



洋銀騰貴ノ原因ヲ論ス

本年横濱市場ニ於テ洋銀價格突起騰躍シテ殆ト狂  
瀾ノ勢ヲ成ス者ハ是レ吾人意想ノ外ニ出ル所ナリ已ニシテ昨今  
ノ相場ハ百弗ニ付紙幣百拾九圓餘ノ大差ヲ為ス至レリ(七拾  
五匁四五分)夫レ從來ノ高情ニ據レハ洋銀ノ騰躍スルハ多ク冬季  
ヨリ春夏ノ間ニ在リ而シテ初秋ヨリ初冬ノ頃迄ハ茶糸ノ輸出  
アルヲ以洋銀價格毎ニ平日ヨリモ低下スルヲ例ト為ス然ルニ本  
年ハ之ニ反シテ即今生糸輸出ノ要時ニ當リ洋銀價格ノ平  
日ヨリモ騰躍シ且其非常ノ点度ニ至リシハ實ニ開港以來未  
曾有ノ變況ト謂ハサルヲ得ス抑此ノ如キ變況ハ何等ノ原因  
アツテ而シテ忽然今日ニ現出スル者ナリヤ

頃来横濱市場ヲ於テ内外高估ノ異口同音ニ唱道スル所ヲ  
聞クニ皆洋銀ノ騰貴ヲ以テ通用紙幣ノ増殖ニ原因スルト

東京

第一國五銀行

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

1030



言ハサルハナシ然レ氏余ハ未タ之ヲ信スルヲ能ク其レ紙幣ノ俄カニ増殖スル片ハ一般ノ物價ニ影響スルト云ハ固キ其理ナキニ非スニテ其物價ニ影響スル片ハ又自カラ洋銀相場ニ傳響スル者ナリ故ニ若シ果シテ論者ノ言ノ如クナレバ紙幣増殖ノ影響ハ先ツ著シク一般ノ物價ニ於テ發現スルキ者ナルニ今ヤ然ラシテ獨リ其洋銀ニ於テスル者ハ何ソヤ請フ試ミニ昨年今日ノ物價ヲ查察シテ茲ニ今日ノ物價ト比較セヨ其水難旱損ノ如キ殊別ノ原因ニ影響セラルシ者ニ非ルヨリハ未タ著シキ差異アルヲ見ス今左ニ昨今兩年ノ緊要ナル物品數種ト洋銀トノ相場ヲ列載シテ敢テ著者ノ為ニ其對較ヲ知ルニ便ニス

明治十年七月平均相場	明治十一年七月平均相場	差額
正米一石 壹斗九升一合二勺	全一斗六升三合六分	二升七合五勺六分 騰
大豆一石 壹斗九升二合三勺	全二斗七合一勺	一升四合八勺 下

砂糖 一貫目 三拾一匁七分	全三拾五匁九分六厘	四匁二分六厘 騰
綿 一石 六百六拾匁	全七百六拾九匁九分	百九匁九分 下
銅 百斤 拾八匁	全拾八匁	
煙州 百斤 拾四匁	全四拾八匁三十三釐	四匁三十三釐 騰
鯉節 拾貫目 廿九匁	全拾七匁六十六釐	十匁三十四釐 下
同八月平均相場		
正米 一石 二斗。五勺五	全一斗九升一合三勺五	九合二勺 騰
大豆 一石 二斗二合六勺	全二斗二升六合三勺六	二升三合七勺六分 下
砂糖 一貫目 三十二匁四分	全三十五匁五分	三匁一分 騰
綿 一石 六百九十八匁壹厘	全八百二十三匁	百廿四匁九厘 下
銅 百斤 拾八匁	全拾八匁	
煙州 百斤 拾四匁	全五十四匁	五匁 騰
鯉節 十貫目 廿七匁	全十八匁	九匁 下

明治十年九月平均相場

明治十年九月平均相場

差額

正米一石二斗。四合六勺

全一斗八升七合九勺

一升六合七勺 騰

大豆一石二斗三升

全二斗三升

三匁 騰

砂糖一貫目三匁五分

全三十五匁五分

三匁 騰

綿一石七匁五分

全八百六拾三匁五分

百八匁三分五厘 下

銅百斤三匁十八匁

全五十八匁

十匁 騰

煙州百斤三匁四十匁

全五十四匁

四匁 騰

鯉節十貫目三匁二十匁

全新十六匁

四匁 下

洋銀相場平均表但シ壹弗ニ付

明治十年

明治十一年

差額

七月 六十二匁九厘八

全六十四匁一分六厘八

二匁。七厘 騰

八月 六十三匁一分四厘二

全六十四匁六分九厘九

一匁五分五厘七毛 騰

九月 六十三匁一分八厘一

全六十六匁。三厘一

二匁八分五厘 騰

十月廿日迄六十二匁四分

全七十匁一分六厘

七匁七分六厘 騰

右ニ載スル所ニ因テ之ヲ見レハ一般ノ物價ハ紙幣増殖ノ為ニ

影響セラレサルヤ明カナリ物價既ニ影響セララルニ非ス焉レソ

洋銀獨リ影響セラルノ理アラシヤ然レハ今暫ク論者ノ為ニ

一歩ヲ譲リ而シテ洋銀獨リ影響セラル者ト為シテ以テ論

者カ痛歎スル所ノ紙幣増殖ノ原因ヲ究明セハ即チ昨年西

南騒乱ノ降政府己ムラ得スシテ交換豫備ノ新紙幣ヲ發行シ

タルト第十五國立銀行ヨリ借需シタル銀行紙幣トノ二項アツテ其

額合セテ四千貳百萬圓トス此外各地方ニ於テ國立銀行ヲ建

創シ各紙幣ヲ發行セリト雖モ昨十年ノ下半年ヨリ今十一

年ノ上半年ニ至リ其額合セテ四百萬圓ニ滿タサレハ彼ノ二項ノ額

比スルニ僅カニ其十分一ニモ及ハサルナリ其レ然リ然則論者カ原因ト

為ス貨幣ノ増殖ハ彼ノ二項ノ四千二百萬圓ニ在テ而シテ其紙幣ノ

發行ハ明治九年度ノ末ヨリ十年度ノ初ニ至ルマテノ間ニ在ル若  
 シ論者ノ言ノ如クナレハ其影響ハ早ク昨春秋冬ノ際ニ於テ多少  
 洋銀上ニ發頭セサルヲ得ス然ルニ當時其相場ハ常ニ六十二匁四五  
 分ニ過ギサリシ爾來殆ント一年ノ久シキヲ經テ初テ昨今ニ至テ其相  
 場俄然騰躍シ而シテ既ニ七十一匁四五分ノ高度ニ屆ル者ハ其故  
 何ソヤ況ヤ從來ヲ以テセハ昨今洋銀價格ノ取モ低下スニキ時ニ於  
 テ今日ノ如キ非常ノ騰躍ニ至ルハ果シテ紙幣ノ増殖ニ原因スルニ非  
 スシテ別ニ顯然掩フ可ラサル一項物在テ貿易ノ權衡ヲ左右スル者  
 ナキヲ得ンヤ曰ク何ソ曰ク輸出入ノ不平均是ナリ例年八九月ヨリ  
 十月ノ交ニハ生糸ノ銷售盛ニシテ時トシテハ數百數千萬匁ノ巨額  
 ニ上レリ斯ク巨額ノ洋銀一時ニ我高人ノ手ニ落チ其目下ノ需要ニ  
 乏シキヨリシテ其價格ハ毎ニ著シク下落スルヲ免レス是ヲ以テ又國  
 人ノ外高ヨリ物品ヲ收買スル者ハ胸中預メ洋銀下落ノ期ヲ

計リ而シテ多ク八九月ノ際ニ於テ其交收ヲ約シ是ニ因テ彼我ノ  
 計算能ク相平均スルヲ得タリ然ルニ今年ハ生糸ノ景況ハ未ダ  
 十分ノ度ニ至ラスシテ例年ノ高情ヲ見ス而シテ洋品ノ收買ハ既  
 ニ例年ニ勝サレリ即チ横濱税関ノ輸出入品元價取調書  
 ヲ見ルニ今年七月ヨリ九月ニ迄ル迄三月間ノ形勢左ノ如シ  
 輸出品元價總計

金三百五拾八萬七百七拾五圓五拾八錢

内譯

七月分 金百拾三萬七千貳百八拾六圓四拾八錢

八月分 金百三拾七萬五千五百三拾九圓九拾八錢

九月分 金百六萬七千九百五拾八圓拾貳錢

輸入品元價總計

金六百三萬三千九百四拾七圓四拾錢

内譯

七月分 金貳百六万四千五百九拾三圓九拾五錢

八月分 金百九萬七千六百壹圓七拾八錢

九月分 金百八拾七万七千七百五拾壹圓六拾七錢

輸入ノ輸出ニ越ルテ貳百四拾五萬三千百七拾壹圓八拾貳錢ナリ  
 夫レ輸出入ノ比較ニ於テハ世人ノ既ニ熟知スル所ニシテ從來一年間  
 ノ平均ニ於テハ輸入ノ輸出ニ超越スルハ固ヨリ例視スル所ナリト雖モ  
 然レモ亦常年六七百萬圓ノ差額ニ過キス即チ昨明治十年年度  
 ニ於テハ輸入ノ輸出ニ越ヘタルテ七百四拾餘萬圓同シク九年年度ニ  
 於テハ輸入ノ輸出ヨリ寡キテ百五拾萬圓餘同ク八年度ニ輸  
 入ノ輸出ヨリ多キテ七百七萬餘圓ナリ而シテ今年ノ如キハ輸出ノ  
 寡モ多カルヘキ三ヶ月間ニ在テ反テ輸入ノ輸出ニ超過スルテ既ニ貳  
 百四拾五萬餘圓ノ巨額ニ上レリ是レ則チ洋銀ノ給需格外ノ

差違ヲ生シ從テ其價格ヲ騰躍セシムル所以ナリ論者或ハ曰ハ  
 ン輸出入ノ不平均或ハ其原因タルカ然レモ輸出ノ不平均ハ豈初  
 テ今年ニシテ之ヲ言ヒヤ明治一年ヨリ十年ニ至ル迄僅カニ一九ノ兩  
 年ヲ除キ他ハ皆年トシテ輸入ノ輸出ニ超過セサルハナシ而シテ其  
 年々洋銀ノ騰躍スル未タ今日ノ如ク然ル者ヲ見ス何ソ獨リ今  
 年ニ於テ此ノ如クナルヤト是則論者カ未タ深ク其實ヲ究メサルヲ以  
 テナリ夫レ輸出入ノ不平均ハ固ヨリ今年ニ始マルニ非ス維新以來  
 概テ年トシテ然ラサルハナシ然レモ一兩年以前ニ在テハ輸出入ノ不  
 平均ニ由テ若シ洋銀價格ノ度外ニ騰躍スルアレハ内地ノ金銀  
 モ亦其價格ヲ増有スルヲ以テ從來諸方ニ沈藏スル所ノ古金銀  
 ノ或ハ其形ヲ新貨幣ニ改メ或ハ其地金銀ト爲ツテ自カラ市場  
 輻輳シ以テ洋銀ノ欠ヲ補ヒ而メ能ク洋銀ノ非常ニ騰躍スルヲ  
 牽制スルヲ得タリ然ルニ一兩年以來ハ内地ノ金銀稍々匱乏シテ

己今日に至テ終々其價格ノ幾許ク騰貴スト雖其源泉一名  
 涸竭ヲ告テ豈下流ニ水ヲ覓ムヘケンヤ是レ即チ今年ノ不平均ハ  
 前年ノ不平均ト同日ニシテ論ス可ラスシテ而シテ今年ノ變況ハ今  
 年初テ發頭スル者ナリ之ニ由テ是ヲ觀レハ昨今洋銀ノ騰躍ス  
 ルハ實ニ輸出入ノ不平均ニ原由スルヲ既ニ昭々トシテ掩フ可ラサル者  
 ニシテ寔ニ憂痛悲懷スルニ堪ヘサル所ナリ然而シテ此ノ如キ變況  
 ハ今年始メテ現出スト雖其亦今年ニシテ止ムヘキニ非ラス今後尚  
 輸出入ノ平均ヲ得サルハ幾年幾世ニ亘リテ年々其況情ヲ  
 呈シ為ニ憂痛悲懷ヲシテ止ムヘキノ期ナカラシメントスル者是レ豈  
 憂國者ノ措テ問ハサル所ナランヤ然ラハ則チ之ヲ救フ術アルカヨク其  
 策モ大勢ニ就テ永遠ノ功益ヲ維持スヘキ者ハ全國普通ノ貨  
 幣ヲシテ貿易ノ媒介トナラシムルノ方法アルノニ支レ洋銀ナル者ハ  
 其通用唯開港場ノ一局ニ限り其供給ノ如キモ際子常ニ定額

ヲ以テシ一時俄カニ需要ノ増減スルニ當テハ其價格忽チ上下  
 スルヲ免カレサルナリ然ルニ通貨ナル者ハ全國一般ノ給需ニ於テ  
 増減スル時ニ非サルヨリハ其價格容易ニ變ス可ラサル者ナリ宜  
 ナリ若シ其貨幣ノ價格ヲシテ容易ニ高低セシムルヲ得ハ則チ貨  
 幣ノ効用ハ適マ貿易ノ機ヲ紊乱スル具タルニ過キサルニ今ヤ家モ  
 緊要ナル貿易ノ樞機ヲシテ一ニ之ヲ價格不常ノ洋銀ニ委ス安シ  
 以テ財政ノ整調ヲ望ムヘケンヤ故ニ此流弊ヲ矯正セント欲セハ須ラシ断  
 然洋銀ノ通用ヲ禁止シ而シテ全國普通ノ貨幣ヲシテ之ニ代  
 用セシムヘシ果シテ此ノ如クナレハ開港場ニ於テ貨幣ヲ要スルハ當リ  
 内部ノ各地ニ散在スル所ノ貨幣ハ響應シテ此ニ輻輳シ以テ其需  
 ニ供スルヲ得ヘクシテ復タ今日ノ如ク洋銀獨リ其高價ヲ擅マニスル  
 事得ス從テ貨紙兩幣ノ差異モ甚シキニ至ラサルヤ昭カナリ  
 洋銀通用禁止ノ事タルヤ固ヨリ永久完全ノ良策タルヲ疑ナシ

ト維氏奈何セシ條約改正ノ時ニ在ラサレハ之ヲ望ムハカラサルヲ以テ  
 今日ノ如キ焦眉ノ急ヲ救フ時ニ於テハ衆ヒ之ヲ百千切論スルモ未  
 タ其効ヲ求ムハカラス是ヲ以テ今日要スル所ハ國內旺盛ナル一ニ  
 開港場ニ於テ洋銀取引所ヲ再興スルニ若クハナシ取引所一ニ  
 興ルノ後ハ今日ノ如キ洋銀ノ騰躍ノ時ニ際シ内外ノ高估ハ皆  
 限月ノ約定ヲ立テ以テ近クハ上海香港遠クハ桑港紐克等  
 ノ地ヨリ相競フテ洋銀ヲ輸入シ其騰躍ノ勢ヲ防遏スルニ務ム  
 ヘキナリ果シテ此ノ如キヲ得ハ縦令々々未タ永久完全ノ良策ヲ  
 立ツルニ至ラサルモ悪ソ今日ノ如キ變况ヲ顯ハシ貿易ノ前途ヲ  
 輻軻スルヲアラシヤ余カ管見此ノ如シ伏シテ當道君子ノ良  
 籌アルヲ待ツノコト

因ニ曰ク世人或ハ今日洋銀ノ騰躍スルハ外人ノ大ニ歡喜  
 スル所ナラント臆測シ喋々トシテ妄想ノ言ヲ吐ク者アリ是レ

謬見ノ甚タシキナリ試ニニ橫濱ノ外高ニ就テ之ニ問二人ト  
 シテ今日ノ景況ヲ喜フモノアルナシ是則テ洋銀騰躍ノ為  
 メニ本邦商人ハ其賣買ニ於テ先約アルヲ除クノ外皆束  
 手シ凌巡シテ高情太々蕭索ニ属スルカ故ナリ

東京

第一回立鏡行